

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 12 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 12 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,565 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲4.1%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,054 円（伸び率▲3.6%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,694 億円（伸び率▲0.1%）、薬剤料が 4,859 億円（伸び率▲5.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 928 億円（伸び率▲1.8%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,415 円（伸び率▲5.3%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.85 種類（伸び率▲0.2%）、24.4 日（伸び率+1.8%）、78 円（伸び率▲6.8%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,926 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲243 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 728 億円（伸び幅▲132 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+37 億円（総額 322 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,926 億円 (▲243 億円)	21 循環器官用薬 (728 億円)	11 中枢神経系用薬 (701 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (613 億円)
0 歳以上 5 歳未満	34.6 億円 (▲7.8 億円)	44 アレルギー用薬 (14.4 億円)	61 抗生物質製剤 (6.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (6.0 億円)
5 歳以上 15 歳未満	95.8 億円 (▲4.6 億円)	44 アレルギー用薬 (33.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (22.3 億円)	61 抗生物質製剤 (10.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,380 億円 (▲69 億円)	11 中枢神経系用薬 (303 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (230 億円)	21 循環器官用薬 (222 億円)
65 歳以上 75 歳未満	931 億円 (▲81 億円)	21 循環器官用薬 (207 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (178 億円)	11 中枢神経系用薬 (115 億円)
75 歳以上	1,485 億円 (▲81 億円)	21 循環器官用薬 (296 億円)	11 中枢神経系用薬 (261 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (198 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,054 円（伸び率▲3.6%）で、最も高かったのは石川県（10,767 円（伸び率▲4.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,826 円（伸び率▲0.5%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+0.9%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲6.2%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標）注)	77.0 %	+6.2 %
薬剤料ベース	19.1 %	+0.7 %
後発品調剤率	74.2 %	+3.5 %
(参考) 数量ベース（旧指標）	53.3 %	+4.7 %

注) [(後発医薬品の数量) / ((後発医薬品のある先発医薬品の数量) + [(後発医薬品の数量)])] で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.8%	+7.1% (5 歳以上 10 歳未満)	▲10.1% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.1%	22.7% (0 歳以上 5 歳未満)	12.2% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	77.0%	79.8% (60 歳以上 65 歳未満)	70.2% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	818 億円 (▲24 億円)	21 循環器官用薬 (262 億円)	23 消化器官用薬 (114 億円)	11 中枢神経系用薬 (93 億円)
0 歳以上 5 歳未満	9.9 億円 (+0.5 億円)	44 アレルギー用薬 (3.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.3 億円)	61 抗生物質製剤 (1.7 億円)
5 歳以上 15 歳未満	19.7 億円 (+1.3 億円)	44 アレルギー用薬 (9.9 億円)	61 抗生物質製剤 (3.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	280 億円 (▲4 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	11 中枢神経系用薬 (43 億円)	23 消化器官用薬 (33 億円)
65 歳以上 75 歳未満	199 億円 (▲13 億円)	21 循環器官用薬 (82 億円)	23 消化器官用薬 (27 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (21 億円)
75 歳以上	309 億円 (▲9 億円)	21 循環器官用薬 (104 億円)	23 消化器官用薬 (54 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,280 円	1,669 円（北海道）	1,096 円（福岡県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.3%	+2.1%（佐賀県）	▲5.9%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	77.0%	86.3%（沖縄県）	70.0%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.1%	22.8%（鹿児島県）	16.7%（徳島県）
後発医薬品調剤率	74.2%	81.9%（沖縄県）	68.9%（東京県）
(参考) 旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	53.3%	62.6%（沖縄県）	48.9%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 30 年 12 月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。